

令和5年度東京都手話通訳者等養成講習会受講生選考試験
手話指導者養成クラス（中途失聴・難聴者向け手話指導）
受講生選考試験・筆記問題

1 次の各文の正しいものに○、間違っているものには×をつけてください。

(1)	2022年6月15日に可決・成立した東京都手話言語条例は、ろう者及びろう者と関わるすべての人々を対象としている。
(2)	合理的配慮とは、障害者から何らかの助けを求める意思の表明があった場合、必ず便宜を図らなければならないことである。
(3)	2021年7月から開始された電話リレーサービスの提供機関は、「一般財団法人 日本財団電話リレーサービス」である。
(4)	中途失聴・難聴者の支援サービスは、2013年4月に施行された障害者自立支援法により定められている。
(5)	ヒアリングループはマイクの音声を電気信号に換えて、ループアンテナに流し超音波を生じさせる仕組みのことである。

2 次の各文の空欄に語群から適当な言葉を選び、記号を記入してください。

(1)	障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法では、障害者が(①)をスムーズにできる仕組みを整備したり、障害のない人と同じ内容の(②)を(③)に得られるようにすることが国や地方公共団体などの責務であると明記されている。
(2)	音は空気の振動として、(④)で集められ、外耳道を通して(⑤)に伝えられる。その振動が(⑥)で増幅され、内耳の(⑦)が振動を電気信号に変えて脳に伝える。
(3)	1975年に発刊された書籍(⑧)は、中途失聴・難聴者の運動に大きな影響を与えた。
(4)	聴覚障害は(⑨)と(⑩)によって障害の程度が区分されている。

ア. 鼓膜	イ. 耳介	ウ. 機会	エ. 音から隔てられて
オ. 教育	カ. 聴力	キ. デシベル	ク. 語音明瞭度
ケ. 情報	コ. 同時	サ. 半規管	シ. コミュニケーション
ス. 聴神経	セ. 数値	ソ. 確実	タ. 蝸牛
チ. 耳小骨	ツ. 緊急通報	テ. 立ちあがる難聴者	ト. 即時

3 (1) ~ (5) に関するものを語群から選び、記号で答えてください。

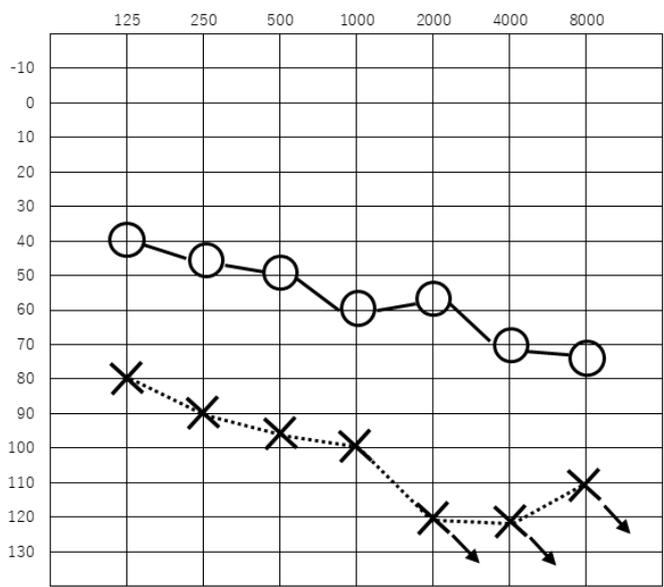
(1)	WHO	(2)	IFHOH	(3)	JDF
(4)	WFD	(5)	ICF		

ア. 国際生活機能分類	イ. 国際障害同盟	ウ. 世界難聴者連合
エ. 世界保健機関	オ. 国際難聴者連盟	カ. 国際連合
キ. 世界保健機構	ク. 世界ろう連盟	ケ. 国際障害分類
コ. 日本障害フォーラム		

4 次の聴覚障害者に関わる組織が創立された順に、1 から 5 の番号を記入してください。

	みみより会設立
	東京都中途失聴・難聴者協会
	新光会
	全日本ろうあ連盟
	全国難聴者連絡協議会

5 下図を見て以下の問いに答えてください。



(1) 上の図の名称で正しいものを選び、記号で答えてください。

ア.	オーディオグラフ
イ.	聴力グラフ
ウ.	オーディオメーター
エ.	オーディオグラム

(2) 選択肢から正しいものを選び、記号で答えてください。

ア.	左耳より右耳のほうが聞こえやすく、全体的に高い音の方が聞こえやすい。
イ.	左耳より右耳のほうが聞こえやすく、全体的に低い音の方が聞こえやすい。
ウ.	右耳より左耳のほうが聞こえやすく、全体的に高い音の方が聞こえやすい。
エ.	右耳より左耳のほうが聞こえやすく、全体的に低い音の方が聞こえやすい。

読み取り 第1問 「パンダの赤ちゃん」

2023年2月21日、東京、上野動物園のパンダ、シャンシャンが中国に返還されました。続いて2月22日には和歌山県のアドベンチャーワールドの永明（えいめい）、桜浜（おうひん）、桃浜（とうひん）も中国に返還されました。今後は保護研究センターなどで暮らすことになっています。

日本に初めてパンダが来たのは1972年。日中国交正常化を記念してランランとカンカンが上野動物園に贈呈されました。現在、日本でパンダがいるのは3箇所。上野動物園、アドベンチャーワールド、そして神戸市立王子動物園です。上野動物園には4頭、アドベンチャーワールドも4頭います。王子動物園には1頭いますが、今は病気のため一般公開は中止されています。また元気な姿を見られる日を地域の人たちは楽しみに待っています。

- (1) 上野動物園のパンダ、シャンシャンが中国に返還されたのはいつですか？
- (2) アドベンチャーワールドから中国に返還されたパンダの名前は何かですか？
- (3) 日本に初めてパンダが来たのはいつですか？
- (4) 日本でパンダがいる動物園は、上野動物園、アドベンチャーワールドともう1箇所はどこですか？
- (5) 一般公開が中止になっている理由は何ですか？

読み取り 第2問 「世界人口と日本の少子化」

世界人口白書 2022によると、2022年の世界人口は79億5400万人で、昨年に比べ7900万人増加している。トップ3は、中国、インド、アメリカで、前年と同様。ただし、2023年にはインドが中国を抜くと予想されている。

一方で、日本では、2022年に生まれた赤ちゃんの数が前年比5.1%減の79万9728人で、1899年に調査を開始して以来、初めて80万人を下回った。出生数は7年連続で過去最少を更新し、政府の予想より10年ほど早いペースで少子化が進んでいる。

日本と同じように出生率が減少していた先進国の中でも、男女が平等に子育てをする環境を整えてきた北欧などでは出生率が上昇している。しかし、男女格差を示す『ジェンダーギャップ指数』で、日本は116位となり、少子化問題に大きく影響を与えている。

- (1) 2022年の世界人口は何人ですか。
- (2) 2023年に予想される世界人口2位の国名を記述してください。
- (3) 2022年の日本の出生数について正しいものを選択してください。
 - ①約80万人で、予想より10年早いペースで少子化が進んでいる。
 - ②調査開始以来、初めて70万人を下回り、少子化が進んでいる。
 - ③前年比5.1%減の69万9728人となり、少子化が進んでいる。
- (4) 内容に合うものを選択してください。
 - ①アメリカでは、男女平等に子育てする環境が整っている。
 - ②先進国では、出生数が減少し、少子化問題が顕著である。
 - ③男女格差と出生数は密接な関係がある。
- (5) 男女格差を示す指数の名称を記述してください。